

「コープフェスタ2011」で被災地の生産者を支援

11月5日と6日、東日本大震災復興支援を目的に、「コープフェスタ2011 つなげよう笑顔」(主催:さいたまコープ、コープネット事業連合)、「健康フェスタ」(主催:医療生協さいたま)、「国際フェア2011」(主催:(財)埼玉県国際交流協会)、「埼玉物産観光フェア」(主催:(社)埼玉県物産観光協会)が、さいたまスーパーアリーナで同時開催されました。さいたまコープは、「つなげよう 笑顔」を合言葉に、全国の生協と共に、被災者の支援、被災地の復興支援に取り組んでいます。今回のコープフェスタには、取引先約100社を含む約250団体が参加、2日間で約10万人が来場しました。

来賓として上田清司埼玉県知事、井戸川克隆福島県双葉町町長、伊礼幸雄沖縄県伊平屋村村長にお越しいただきました。

「コープフェスタ2011 つなげよう笑顔」の「再会と交流 復興支援ゾーン」では、岩手・宮城・福島県3県の県産品が販売され、福島県の郷土料理「イカにんじん」や柏餅が味わえる「ふれあい茶屋」が開かれました。

ふれあい茶屋の運営には、埼玉・加須市の旧騎西高校避難所で暮らす双葉町の皆さんも参加され、準備に腕をふるっていました。イカにんじんとは、松前漬けに似た保存食で、お正月などにもよく食べられるそうです。2日前から漬けこみ、柏餅は当日の朝早くから準備したそうです。



双葉町婦人会のふれあい茶屋。

約2時間半で、すべて完売した。

双葉町婦人会の中村富美子会長は、「コープフェスタに参加できて光栄です。イカにんじんと柏餅もおかげさまで好評で、地元の人たちは懐かしがっていました。ふるさとを離れて7カ

月あまり経ちますが、埼玉の皆さんのお心遣いに感謝しています」と話していました。また、会場内のステージでは福島県の民謡や踊りも披露され、婦人会による「相馬流れ山踊り」に会場を訪れていた人たちは拍手喝采でした。

県産品販売コーナーでは浪江町・松永陶器店による大堀相馬焼の展示販売や、宮城・石巻で大きな被害を受け、ようやく製造を再開した水野食品株式会社の魚の西京漬けなども販売されました。

水野食品株式会社の水野茂専務は、「震災当日、石巻市にある水産物加工工場は7mの津波に襲われ、1階にあったものは全てが流されてしまいました。しかし、製造用の機械を置いていた2階部分はかろうじて残ったので、余震の続く中、復旧工事を始め、11月から製造を再開することができました。まだ生産量は被災前の10分の1程度ですが、少しずつ進めたいと思います。組合員さんからは「待っているよ」というメッセージをたくさん

いただき、大きな励みになりました。生協さんとは30年近いお付き合いで、会社は組合員の皆さんに育てていただきました。ご縁があって本当によかったと思っています。この石巻で初心に帰り、よりおいしいものを頑張って作っていきます。引き続きよろしく願い申し上げます」と意欲を見せていました。

6日には北海道の「温もり届け隊」による手編みの靴下カバーを、避難されている皆さんにお届けする贈呈式も行なわれ、被災地の皆さんとの「交流の場」となりました。

双葉町の井戸川克隆町長は「たくさんの方々が来て下さり、たくさんのお元気をいただいて感謝しています。本当に素晴らしいイベントで、コープさん、埼玉県の皆さんのパワーを感じました。今日の感謝の気持ちを私たちの町の再建につなげたいですね。あまり落ち込まずに、できることから始めて、少しずつ進んでいこうと思います」と話していました。

知事と共に会場を訪れていた埼玉県の塩川修副知事も「埼玉県では5,000人の方が避難されており、これからも支援を続けたいと思っています。コープフェスタは大盛況で元気が出ますね。なんといっても『元気』が基本です。被災された皆さんの元気のために私たちもがんばります」とエールを送っていました。

さいたまコープ組合員理事の新井ちとせさん、川本晶子さんは、「さいたまコープでは、さまざまな形で被災地支援を続けています。テーマは『つなげよう 笑顔』。震災に遭われた方の笑顔は、私たちの笑顔でもあります。夏には岩手県の『お米育ち豚』と『三陸産生わかめ』の生産者さんを訪問して組合員さんたちからの応援メッセージを送りました。今後こうした支援は続けていきたいですね。積極的な支援もですが、メッセージを送るなど、できることを一つずつつなげていきたいと思っています。今回のコープフェスタでは、県内他団体の皆さんとも連携が取れ、いろいろなつながりが深まりました」と話していました。

なお、会場では被災地への義援金も多数寄せられ、物産展の売り上げの一部も義援金とされました。